

小酒井不木研究―医学と文学との領域横断性

山口 俊雄

(日本文学部国語国文学科、文責)

橋本 明

(教育福祉学部社会福祉学科)

本稿は、二〇一〇年度愛知県立大学学長特別研究費の配分を受けた研究「小酒井不木研究―医学と文学との領域横断性」についての報告である。二〇一一年八月九日に愛知県立大学で行われた教員研究発表会で配付した資料と文面が重複するところが多いことを予めお断りしておく。

《小酒井光次みつじ＝小酒井不木とはどのような人か？》

●一八九〇～一九二九（結核罹患。若くして亡くなる。八事霊園に墓。）

●愛知県海部郡蟹江村（現・蟹江町）で生まれる。

●愛知県立第一中学校（旭丘高校の前身）↓三高↓東大医学部（首席卒業）

●東北大学医学部助教授を拝命後ただちに米英仏に留学し衛生学・血清学の最新の知見を習得するが、結核悪化のため妻の実家の神守村（現・津島市）で療養生活。

結局東北大学には赴任せず。医学者よりも、文筆家、文学者の方へ。

(名古屋市御器所に住む。現在の昭和区鶴舞四一五―十四、碑と説明標識あり。)

●探偵小説の執筆(『恋愛曲線』『人工心臓』『一九二六』ほか、医学の専門的知識を駆使した独自の世界を創り出す。日本の本格SFの祖という評価も。)

●探偵小説の紹介、翻訳

●探偵小説の若手発掘(江戸川乱歩、夢野久作)

……モダニズム文学を支えた『新青年』の編集者とも交流(森下雨村、横溝正史ら)

●他に、医学的エッセイなども。特に、自身の結核との闘病体験を踏まえて書かれたエッセイ『闘病術』(春陽堂、一九二六)はベストセラーかつロングセラーとして版を重ねた。

●没後直ちに全集が編まれる(乱歩らの努力)。

『小酒井不木全集』全十七巻、改造社、一九二九―三〇

●今日、文庫本レベルで容易に入手できる小酒井不木の著作は多くない。

・『日本探偵小説全集1 黒岩涙香・小酒井不木・甲賀三郎集』創元推理文庫、一九八四

・日下三蔵編『恋愛曲線 小酒井不木集』ちくま文庫、二〇〇二(品切れ)

*ただし、アンソロジーの類を含めれば収録書は多数。

●もし長生きできれば、医学者「兼」文学者として森林太郎⇨森鷗外や太田正雄⇨木下空太郎などとも並ぶ大きな足跡を残せたのではないか。

1 研究目的

当研究は、愛知医科大学図書館(長久手市)が所蔵する小酒井不木旧蔵洋書を網羅的に通観し、蔵書の特徴を考え、特に不木による書込みを把握することにより、医学者でもあり作家(探偵小説作家)でもあった小酒井不木の知のありかたを明らかにし、領域横断的な知とはどのようなものかということにつき、一つの優れた例を通して考察・研究しよう

うとするものである。

蟹江町・名古屋市で育ち暮らした不木は蔵書家としても知られるが、和書・和漢書は名古屋市蓬左文庫に収められ、洋書が愛知医科大学図書館に収められている。医学・犯罪学・文学とその分野は多岐にわたるが、小説作品や随筆のテーマやアイデアのヒントをこれらの書物から得たことを、山口がいくつかの書込みの確認により明らかにし、その一端を先に報告した（夢野久作「押絵の奇蹟」論―迷信・科学・文学」『愛知県立大学文学部論集（国文学科編）』第五七号、二〇〇九・三、八九―一二二頁）。さらに網羅的な調査を行うことで、特に医学的トリックを駆使した探偵小説（推理小説）を得意とした不木の領域横断的な知のありかたを説明する。

2 研究内容（経過、成果及び到達点等）

〈経過〉

二〇一〇年六月・七月に、計四回、愛知医科大学医学情報センター（図書館）に足を運び、小酒井不木文庫として所蔵されている小酒井不木旧蔵洋書（約四四〇冊）について、全冊を通覧し、書き込み箇所を拾い出し、単なる線引き程度に終わらない書き込みについて複写した。

最初の一回は山口が、図書館の事務長（坪内政義氏）へ挨拶と今後の調査の手順等についての打ち合せのために訪れ、残りの三回は、山口、共同研究者の橋本明（本学教員）、研究協力者の加藤彩（本学文学部国文学科学生）の三名で訪れ、分担しながら調査に携わった。

書き込みのデータベース作成のために複写は当然必要な作業だが、単に複写必要箇所の発見のためだけでなく、網羅的に通覧したことで、蔵書の特徴（文学書においてはその広範さ、自然科学関係では科学史・科学哲学というメタ科学

的な関心のありよう、また探偵小説と関連する犯罪学関連書目の多さ）を俯瞰的に把握することができ、また単に蔵書リストのフラットな記述を見るだけでは分からない、図書ごとの読み込みの度合いの違いという質的な特徴の存在も把握することができた。

これら愛知医科大学で行なった調査結果を持ち寄り、三名で検討吟味した上でデータベース化する作業を、山口と加藤とで行なった。二〇一〇年一〇月から翌年一月にかけ、入力のための作業を加藤が行ない、チェックや調整作業を山口が行なった。

〈成果・到達点〉

上記のような調査・作業を通じて、小酒井不木旧蔵洋書の書き込みに関するデータベースを作成したことが第一の成果であり到達点である。（次頁以下にその一部分を掲げる。）

現段階では「稿本」水準にとどまるが、今後、所蔵機関である愛知医科大学図書館とも協議の上、公開の方法について検討して行きたい。

次に、書き込みの特徴について俯瞰的に通観できたことも重要な成果である。

読み進めながら重要だと感じた箇所に、下線を引き、余白に丸印等の印を付けるということや、キーワードを余白に抜き書きしたり外国語文献であるため訳語を書き込むということは、他の多くの人間と同様だが、本文に触発されて抱いた感想の書き込みなどには不木らしさを読み取ることができた。

不木らしさとは、具体的には、自然科学のみならず文学・人文科学的な知も視野に収めつつ、科学者とはどうあるべきかということを自らの問題として絶えず考えていたということである。

また、英語の文献への書き込みの中に本文中の言葉をドイツ語に置き換えたものが散見し、これなどは、不木の外国

《小酒井不木文庫（洋書）書込み状況調査表（抄）》

記号・番号	著者	書名	出版者	刊行年 (輸入は表紙)	言語 (輸入は表紙)	内容のある書込みがある頁のページ	物類程度の書込みのある頁のページ	訳語などの書込みのある頁のページ	注記事項	備考
N24	Browne, Sir Thomas	The works of Sir Thomas Browne, vol.2	Gent	1912	なし		PSEUDODOXA EPIDEMICA (伝染性怪論, 1646年) の頁, 236	最初のCONTENTSの頁 (Of Goblins なる題について (戯稿), Of the Phoenix なる題について (風説) と訳題), 147, 205, 236.	125, 126折れ目	
N25	Browne, Sir Thomas	The works of Sir Thomas Browne, vol.3	Gent	1912	なし		最初のCONTENTSの頁II, 528 (緒文) 2つの頁も含め (On Dreams) なる題, 553, 554.	347.	337, 338折れ目	
N43	Dizrael, Isaac	Quintessences of literature Vol. 1	Werne	n.d.*	CONTENTS OF VOLUME I, 22, 33, 47, 87, 162, 163, 164, 165.	CONTENTS OF VOLUME I, 35, 86 (題), 161, 162, 163, 164, 165, 285, 286, 287.	CONTENTS OF VOLUME 1, 22, 33, 126, 127, 150, 162, 163, 285, 286, 287, 431, 239, 240以下に折れ目	このシリーズの初版 ~ 1824		
N44	Dizrael, Isaac	Quintessences of literature Vol. 2	Werne	n.d.	311.	n.v. (〇題), 1218, 219 (〇題), 394.	311.	191頁上に破れ, 443, 444折れ目		
N45	Dizrael, Isaac	Quintessences of literature Vol. 3	Werne	n.d.	201, 203, 265, 273 (本巻), 275, 276, 279, 285, 287, 339.	Genies (〇題), 171, 177, 285, 286, 288, 272 (〇題), 273, 279, 282 (〇題), 284, 287, 288, 290.	296.	129, 130以下に折れ目		
N60	Duae, S. A	Leo Carrage Doppeldecker	Singer	n.d.	なし	なし	なし	英訳紙に手書きで (mode-after / 模倣 after) の, 234 (番号の附記を訂正)		
N61	Duae, S. A	Das Cotta-Gelminis: Daktiv-pornen	Singer	1923	なし	97, 98, 101, 104, 113.	なし			
N62	Duae, S. A	Der Doppelstock: Daktiv Roman (生ける聖型)	Singer	n.d.	なし	79.	なし	英訳紙見返し (空頁, 44, 45, 46) 題目の頁に印, 英訳紙見返し (図形, 数字, 44, 45)		
N63	Duae, S. A	Pm. König: Daktiv Roman (スヘートのキツ)	Singer	n.d.	なし		72, 76, 83, 165, 161, 170, 185, 190, 195, 202, 204, 205, 209, 212, 220, 223, 226, 229, 236, 241, 246, 254, 257, 259, 261, 268, 270, 275.	英訳紙見返し (数字)		
N64	Duae, S. A	Pm. König: Daktiv Roman	Singer	n.d.	なし	なし	なし	英訳紙見返し (To Dr Mitsui! Kosaki! From M. A. Coca and A.F. Coca as a small memento of a pleasant if short association in New York City, June 4th, 1919)		
N123	Kriyuan, Omar	Quintessences of Omar Kriyuan, Tr. by Edward Fitzgerald	Bernard S.	1909	なし	なし	なし			
N156	Wier, John Theodore	Religion and science: a philosophical essay	Blackwood	1915	25, 45 (文), 46 (文), 78, 81 (15面から), 301 上部空白 (Phenomena Vaccumに引いた言葉), 301 下部空白 (4巻で私に生ずる諸相) という文に破れておへん(文や文意), 39 (巻), 47 (巻), 54 (巻), 59 (巻), 74 (巻), 87 (巻), 88 (巻), 91 (巻), 113, 253, 34, 39, 45, 47, 52, 62, 64, 66, 68, 69, 72, 74, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 100, 103, 105, 106, 112, 113, 161, 163, 123, 143, 149, 150, 152, 153, 154, 156, 162, 164, 166, 170, 172, 174, 176, 178, 182, 186, 187, 189, 192, 194, 218, 220, 221, 223, 225, 227, 231, 232, 234, 239.	2, 45, 91, 113, 14, 15, 17, 19, 21, 23, 24, 26, 32, 34, 36, 38, 40, 42, 44, 46, 48, 50, 52, 54, 56, 58, 60, 62, 64, 66, 68, 69, 72, 74, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 100, 103, 105, 106, 112, 113, 161, 163, 123, 143, 149, 150, 152, 153, 154, 156, 162, 164, 166, 170, 172, 174, 176, 178, 182, 186, 187, 189, 192, 194, 218, 220, 221, 223, 225, 227, 231, 232, 234, 239.	25, 45 (文), 46 (文), 78, 81 (15面から), 301 上部空白 (Phenomena Vaccumに引いた言葉), 301 下部空白 (4巻で私に生ずる諸相) という文に破れておへん(文や文意), 39 (巻), 47 (巻), 54 (巻), 59 (巻), 74 (巻), 87 (巻), 88 (巻), 91 (巻), 113, 253, 34, 39, 45, 47, 52, 62, 64, 66, 68, 69, 72, 74, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 100, 103, 105, 106, 112, 113, 161, 163, 123, 143, 149, 150, 152, 153, 154, 156, 162, 164, 166, 170, 172, 174, 176, 178, 182, 186, 187, 189, 192, 194, 218, 220, 221, 223, 225, 227, 231, 232, 234, 239.	25, 45 (文), 46 (文), 78, 81 (15面から), 301 上部空白 (Phenomena Vaccumに引いた言葉), 301 下部空白 (4巻で私に生ずる諸相) という文に破れておへん(文や文意), 39 (巻), 47 (巻), 54 (巻), 59 (巻), 74 (巻), 87 (巻), 88 (巻), 91 (巻), 113, 253, 34, 39, 45, 47, 52, 62, 64, 66, 68, 69, 72, 74, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 100, 103, 105, 106, 112, 113, 161, 163, 123, 143, 149, 150, 152, 153, 154, 156, 162, 164, 166, 170, 172, 174, 176, 178, 182, 186, 187, 189, 192, 194, 218, 220, 221, 223, 225, 227, 231, 232, 234, 239.	25, 45 (文), 46 (文), 78, 81 (15面から), 301 上部空白 (Phenomena Vaccumに引いた言葉), 301 下部空白 (4巻で私に生ずる諸相) という文に破れておへん(文や文意), 39 (巻), 47 (巻), 54 (巻), 59 (巻), 74 (巻), 87 (巻), 88 (巻), 91 (巻), 113, 253, 34, 39, 45, 47, 52, 62, 64, 66, 68, 69, 72, 74, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 100, 103, 105, 106, 112, 113, 161, 163, 123, 143, 149, 150, 152, 153, 154, 156, 162, 164, 166, 170, 172, 174, 176, 178, 182, 186, 187, 189, 192, 194, 218, 220, 221, 223, 225, 227, 231, 232, 234, 239.	25, 45 (文), 46 (文), 78, 81 (15面から), 301 上部空白 (Ph

N242	Misnell, William	On the philosophy of discovery	Parker	1860	7/17 (「ラトナーの特点」・10 (50)原稿第三巻終り)・「フリツ (50)原稿第三巻」・32, 33, 46, 74, 174, 101, 129, 130, 157, 160 (日本の事情の科学に於する一大転機といはねばならぬ)・222 (「van」)	4,5,7,8,12,14,17,18,20,28,36,50,55,57,74,75,76,77,78,81,84,126,129,130,134,135,140,141,143,144,151,155,157,158,160,169 (原稿)・171,173,175,182,183 (巻頭)・184,203,205,213,219,222	7/11,13,28,58,125,140,171,	扉に署名 (?)・386, 389頁上欄折れ	
S39	Hamilton, William	The history of medicine, surgery, and anatomy. Vol. 1	Bentley	1831	370下段、(英国医学の源はなかった理由)・400 (Hecker 参照) 云々。	preface,8,48,335,347,348,369,	310,311,316,317,323,324,386,407,		
C10	Ellis, Havelock	The Criminal. 5th Ed. (英訳)	Scott	1914	35 (Degeneration), 52 (Degeneration)	1 (Preface to the third edition), 1-3, 17, 19, 21, 23, 144, 147, 182, 186, 220, 232, 238, 240, 352 (原稿カ?)			
C20	Hebbing, Eranne	Die Traur. Geschichte der Folter im Kriminalverfahren aller Völker und Zeiten. (あらゆる民族・時代における刑罰の諸間の歴史)	n. d.	独	30 (岡本綺堂氏「逸史の巻」・巻終)	1,2,8-11,13,16,19,23,27,30,32,37,41,42,56-59,65-70,72,74, zweite Teil 1,19,	82 (本文の「Heikini」を「Yakumi」を「Yakumi」と訂正の置か、或はしの次の通り紙に署名もししるのみ	戻返しに「NAKUZEN-TOKYO」の署名あり	
C45	Mullien, Erich	Psychologie des Verbrechens. ein Hand. Lageschrieb. buch für Juristen, Ärzte, Pädagogen und Bd. 1. (犯罪者の心理学)	Langen	1913	137 (復讐殺害の三編終り)・	129,131,133,135,			Women,犯罪学集, 知恵の研究集・中村久大蔵蔵(上)・フランク・ラウ(1929) 訳及 (289, 319頁, 人名索引!!!)
C46	Mullien, Erich	Psychologie des Verbrechens. ein Hand. Lageschrieb. buch für Juristen, Ärzte, Pädagogen und geschichte aller Stände. 2. Aufl. Bd. 2	Langen	1913	独	274 (「内「フアンズ」369頁)・	55,291,293,296,299,309,315,474,479,		
C47	Mullien, Erich	Der Sexualverbrecher. ein Hand. buch für Juristen, Vorw. in Leibesheile und Ärzte	Langen	1922	独	なし	なし	なし	
C48	Mullien, Erich	Das Web als Sexualverbrecher. ein Handbuch für Juristen, Verwaltungsbeamte und Ärzte	Langen	1923	独	84 (其後 巻3, 續編終り)・192, 193 (Feuerbach) 二部	84, 85, 115, 121, 172, 174, 182, 183, 192, 193,	192, 193	のちに複製あり・女性の犯罪・フランク・ラウ(1929) 訳・野添敬義蔵・東京・創経社, 1932
P1	Broch, Jean	The sexual life of our time. in its relations to modern civilization	Herrn	1922		437 (遺精)・449 (Treatment of impotence)・	77,430,494,436,437,438,439,440,446,448,450,451,690,	27,119,437,	戻返しに署名 (m. Kosai January 1924)
P9	Ellis, Havelock	Studies in the psychology of sex	Cavis	1924	563 (「恥垢」といふ探偵小説)・	564,566,569,	なし		
British, Paul	and his collabo-Studies in immurity. 2. ed	Wiley	1910		216 (「コノ犯罪者」(「マヤ」「アハズ」) (非典型性血漬トモリ状ト十分三十分一時間・・・ト遅ク次ニ新鮮ナル血漬ヲ加ヘテ疑血ヲ見ル コノ実験ヲ行フ必要アリ, 617 (「コ・ニ根本的ノ原ガアリ」, 619 (「コノコト十分疑ムベシ」, 622 (「キヲイコトコロテヤツナオム」, 646 (「コレヲシテ証明ニカラス」)	618,620,621,	なし		collected and translated by Charles Bolden

*記号番号のアルファベットは、N (小説)・歴史・詩、その他、S (医学史および自然科学)、P (心理学および性科学)、I (免疫学)、E (辞典類)、雑誌、という分類による。

語の堪能さ、特にドイツ語の堪能さを物語るものである。

他にも、調査を通じて判明した重要な点としては以下のようことが指摘できる。

・〈小酒井不木文庫〉として一括されている中に、不木没後刊行の書籍が交じっていること（多くは不木長男・小酒井望氏の蔵書だと思われる）、また、不木生前刊行の書籍でも不木の筆蹟とは違う書き込みのあるものが交じっていることが分かり、全冊を不木の旧蔵書と見ることに問題があることが分かったのも重要な点である。（気付けた限りでデータベースに反映。）

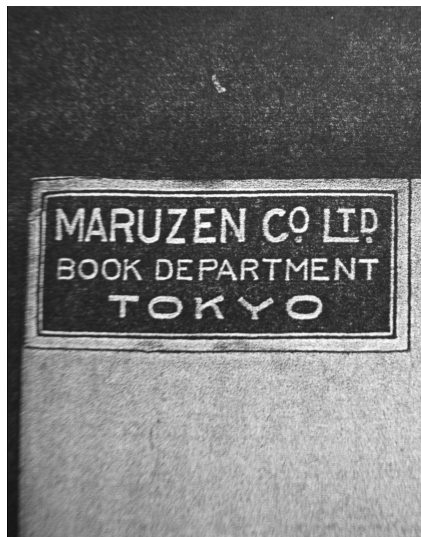
・一口に不木旧蔵書と言っても、読み込み方の度合いに違いがあり、最初の方を少し読んだだけと思われる書籍や、アソビカット本でページをカットした形跡のないもの（つまり読んだ形跡のないもの）などもあり、データベースから読み取れる書き込みの多寡とも連動させながら、読み込みの度合いを吟味することが必要であることが分かったことも重要である。

不木旧蔵の医学関係書目の特徴としては、医学史に関わる書目や科学哲学に関わる書目の存在が挙げられるが、読み込みの点においてもそれらの書目には書き込みが目立つ。

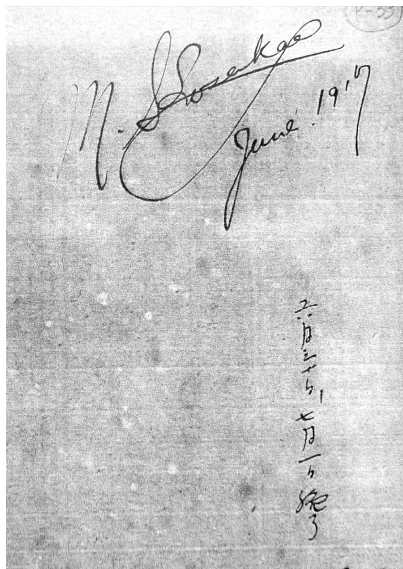
ここで書き込み等の例を写真で示しておこう。次頁以下をご参照いただきたい。

なお、関連作業として、名古屋市蓬左文庫所蔵の不木旧蔵書・不木草稿類についてもある程度調査を行なった。

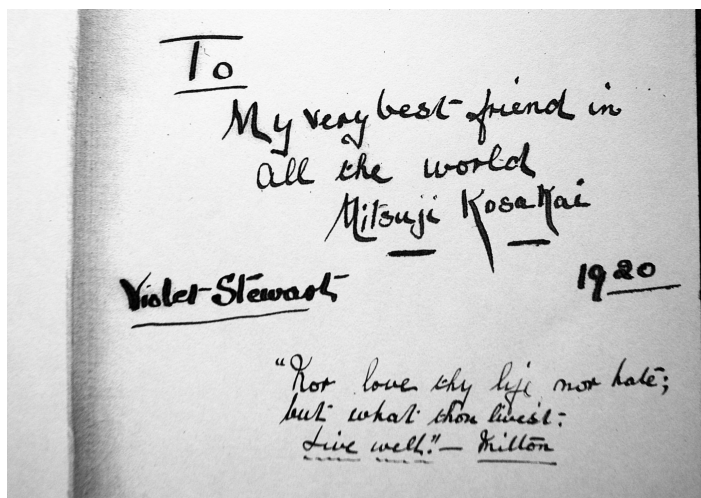
不木旧蔵書のうち、古典籍（和漢書）が蓬左文庫に寄贈されたことはこれまで知られてきた（『名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録』『名古屋市教育委員会、一九七六』もほぼ和漢書のみ掲載）が、明治以降、不木生前までの和書（洋装本）の存在については全く注目されてこなかったことを踏まえ、洋書への書き込みとの違いを概略的にでも見当を付



②書店のシール
他に、ニューヨークやロンドンの書肆のもの散見。

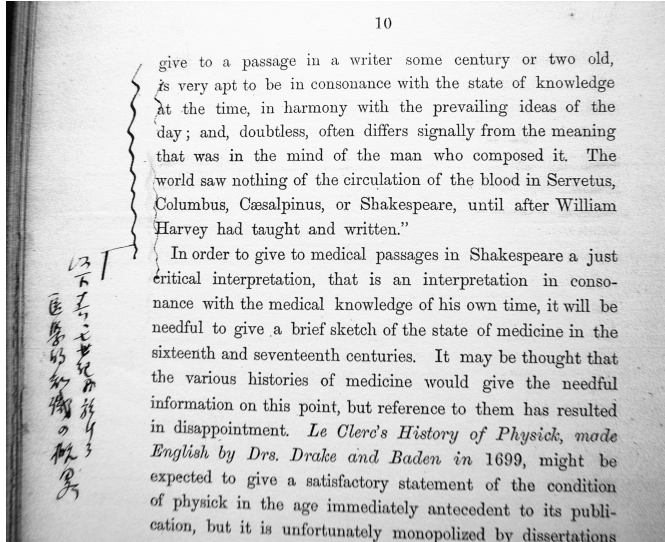


①署名等
P33 : Trall, R. T., Sexual physiology and hygiene, Simpkin, 1914 → 読んだ時期の特定

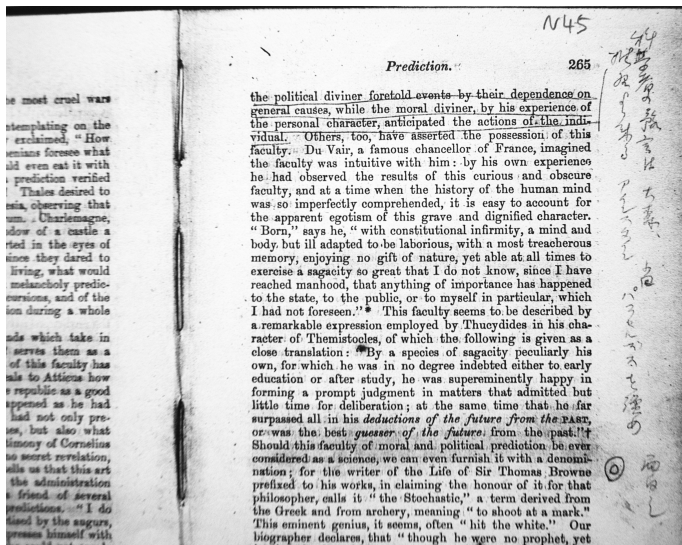


③献呈辞

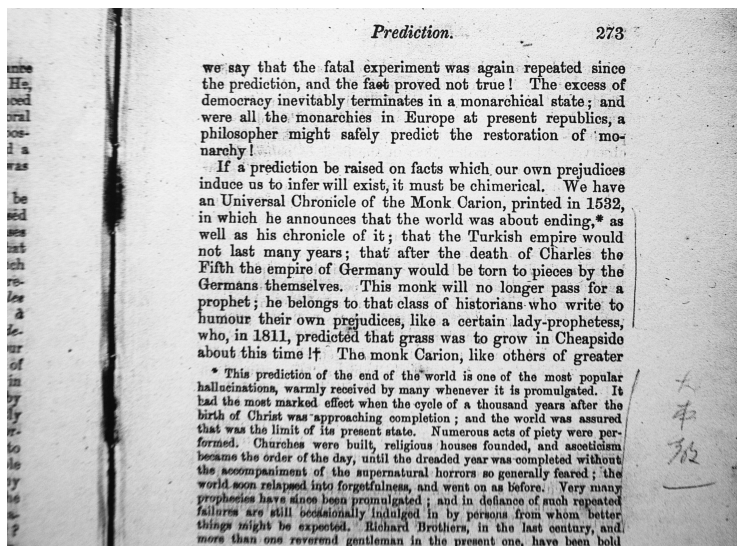
N158 : Milton, John, The complete poetical works of John Milton, Milford, 1913
→ 海外での交流の実態 (1919年6月に合衆国から英国へ、9月にロンドンで咯血、ブライトン海岸へ転地、1920年5月にパリへ、咯血、カシニョンへ転地、9月にマルセイユから帰国船乗船、11月に神戸着)。『失楽園』第11巻からの引用で不木を励ます。



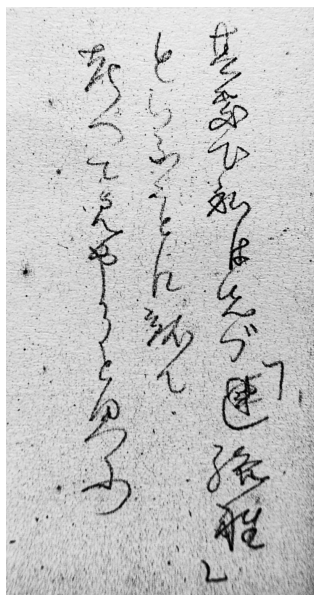
④N26 : Bucknill, John Charles, The medical knowledge of Shakespeare, Longman, 1860



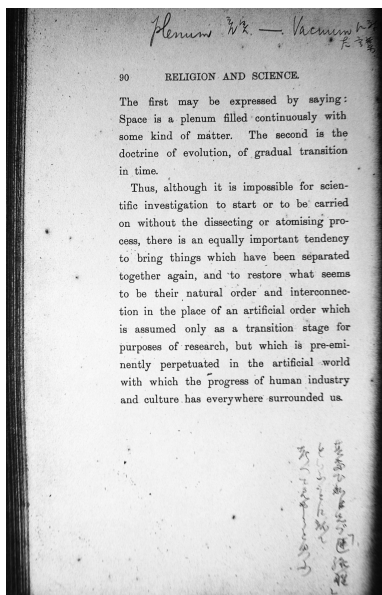
⑤N45 : Disraeli, Isaac, Curiosities of literature Vol.3, Warne, n.d.



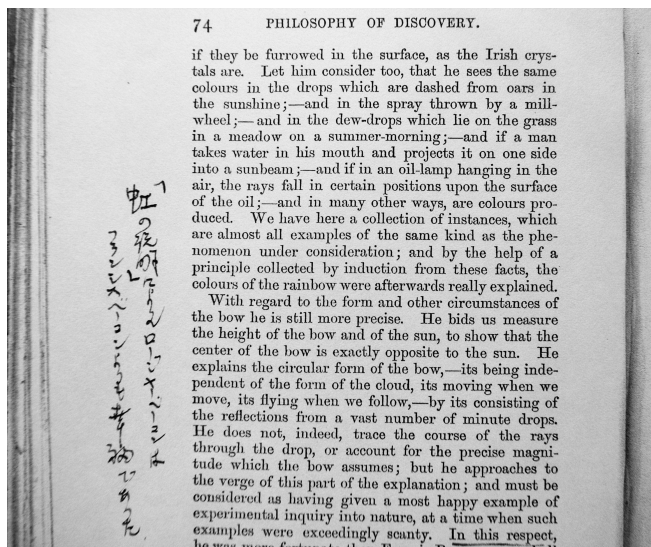
⑥同、《大本教》



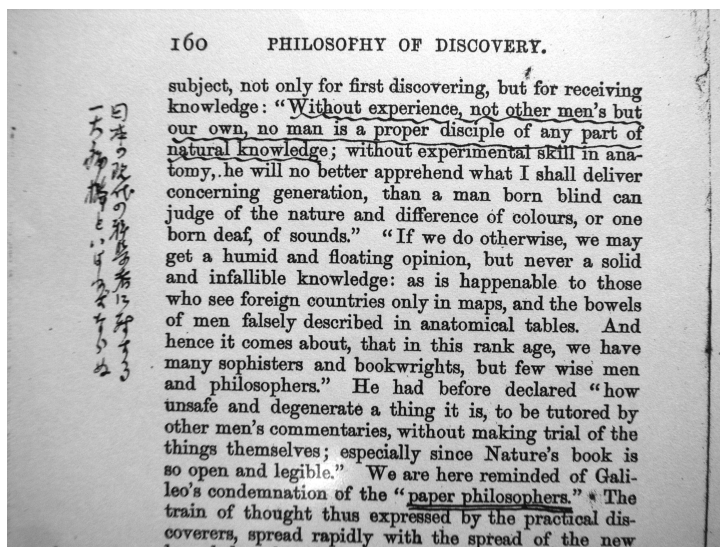
⑧同、《其處で私は先づ「連絡性」といふことに就て考へて見やうと思ふ》



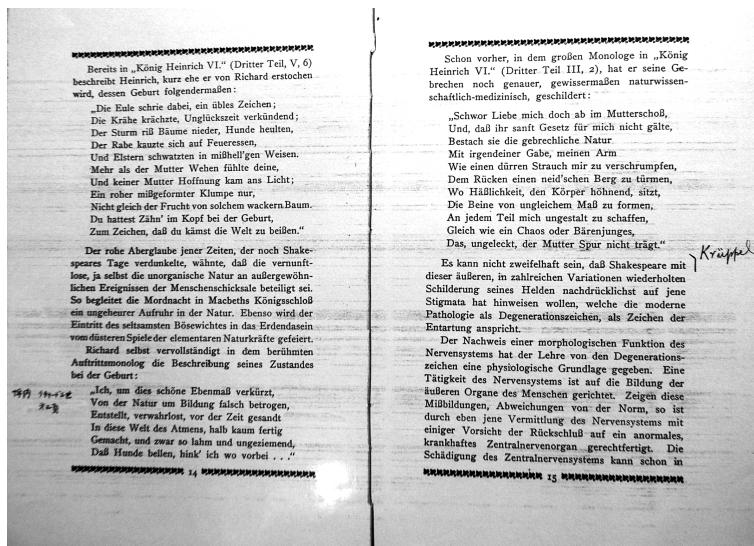
⑦N156: Merz, John Theodore, Religion and science: a philosophical essay, Blaskwood, 1915



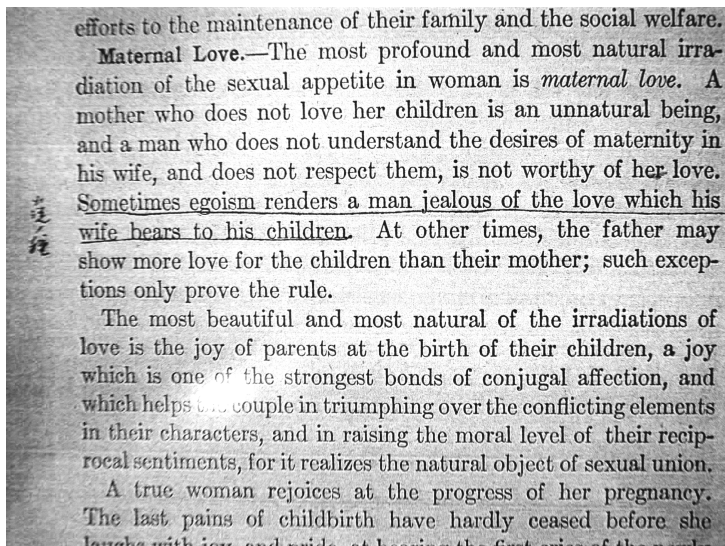
⑨N242 : Whewell, William, On the philosophy of discovery, Parker, 1860



⑩同、《日本の現代の科学者に対する一大痛棒といはねばならぬ》



- ①N248 : Wulffen,Erich,Shakespeares grosse Verbrecher : Richard III-Macbeth -Othello, Langenscheidt,1911 →シェイクスピアをドイツ語でも



- ②P12 : Forel, August, The sexual question : a scientific, psychological, hygienic and sociological study, Medial Art Agency, n.d., p.135 《小説の種》

けるために特に医学・文学と関係の深い書目を中心に閲覧し、書き込み箇所を複写した。

ただし、これは今回の研究の中での位置づけとしてはあくまでも関連調査にとどまるので、全冊（近代の洋装本だけで一〇四〇冊程度に及ぶ）を網羅的に通観するという態度は取らなかった。

これは基本的に山口が行なった（二〇一〇年九月九日、二〇一一年二月一七日）が、データの整理、エクセルファイルへの入力には加藤も参加した。

3 研究発表の予定など

・蔵書の特徴、読み込みの度合いの多寡なども視野に含め、書き込み調査から判明した不木の読書傾向の特徴についての論考「小酒井不木研究―医学と文学との領域横断性―愛知医科大学小酒井不木文庫蔵書調査を通じて」（仮題）を山口と橋本が執筆する。

・作成した書き込みのデータベースについては、愛知医科大学とも協議の上、紙媒体あるいは電子媒体による公開を考えた。（なお、現在、愛知医科大学の蔵書検索システムには、小酒井不木文庫扱い書籍は登録されていない。）

・できれば研究報告会を開催したい。場所は、愛知県立大学長久手キャンパスまたはサテライト教室を考えている。一九一〇年代―二〇年代日本における医学・心理学・人文科学の知的交流・交錯を研究しているメタモルフォーゼ研究会（代表：名古屋大学教員坪井秀人氏、山口と橋本が参加）との共催も検討したい。

4 今後の計画又は展望

不木という一箇の人間の知的世界・思考の中では、洋書／和書の根本的な区別は存在しないはずであるから、関連作業として行なった名古屋市蓬左文庫所蔵の旧蔵書についても書き込みの調査を行ない、蔵書の特徴、そこから窺われる不木の知的世界の特徴について研究したい。

蓬左文庫所蔵の旧蔵書は、古典籍（和漢書）と近代以降の書籍とに大別されるが、まずは近代以降の書籍について着手したい。

古典籍については、共同研究者あるいは研究協力者として日本古典文学研究者や漢文学研究者の参加も求めて、後日別のプロジェクトとして企画したいと考えている。

蓬左文庫についてはまた、不木の草稿類の所蔵も確認されたので、草稿から完成作へと至る生成論的な研究が可能であることが判明した。これは研究対象としてはまったく手つかずのままであるので、今後研究対象として取り上げることは大変有意義でありやりがいのあることであるが、当地の知的偉人を取り上げるとい意味で〈地域貢献〉に、また蓬左文庫でも未整理資料扱いであるところから、今後協力しつつ作業を進める余地があるという点では〈地域連携〉に資するものと考えられるので、探偵小説研究を専門とする小松氏（金城学院大学教員）などへも研究協力者として参加依頼しつつ、文字文化財研究所のプロジェクトの一つとして進めてゆくことができると考えている。

（参考文献）

- 『小酒井不木文庫』愛知医科大学付属図書館、一九八〇（蔵書目録）
 牧野英二『増補・和辻哲郎の書き込みを見よ！——和辻倫理学の今日的意義』法政大学出版局、二〇一〇

*図書資料等の閲覧に協力してくださった愛知医科大学図書館の事務長坪内政義氏、名古屋市蓬左文庫の文庫長桐原千文氏にこの場を借りてお礼を申し上げます。